

# CO・OP REPORT

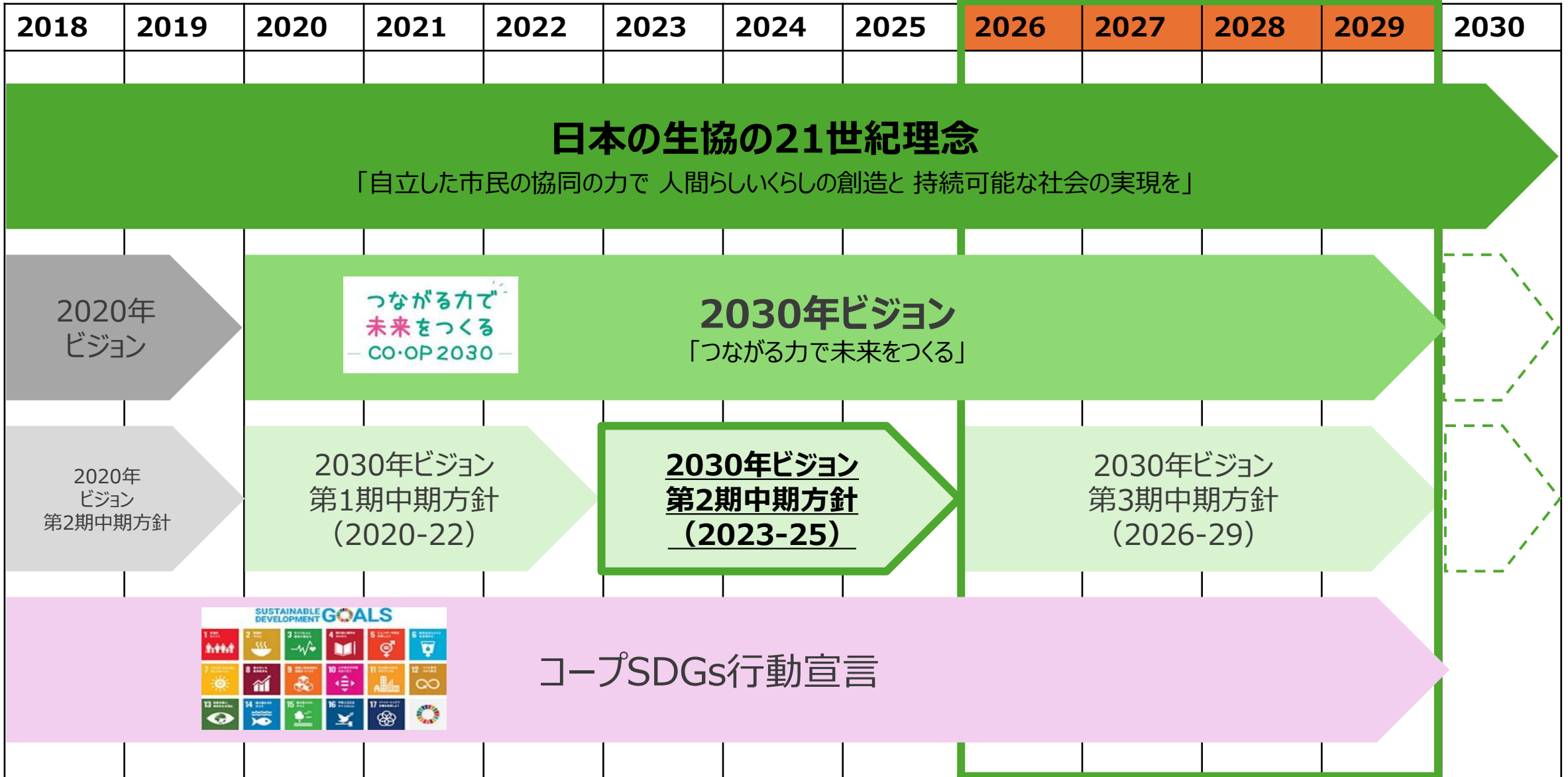
～生協の広報誌 全国の生協の今をお知らせします～

2026 SUMMER&AUTUMN VOL.168

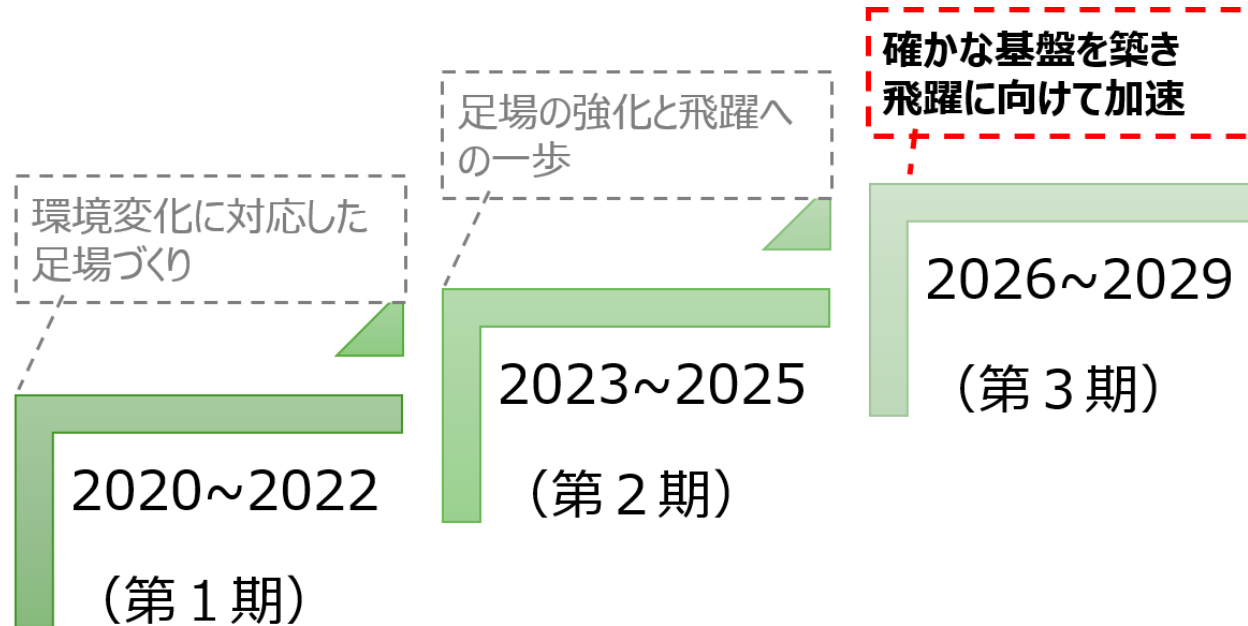
---

**日本生活協同組合連合会**

# 2030年ビジョン第3期中期方針



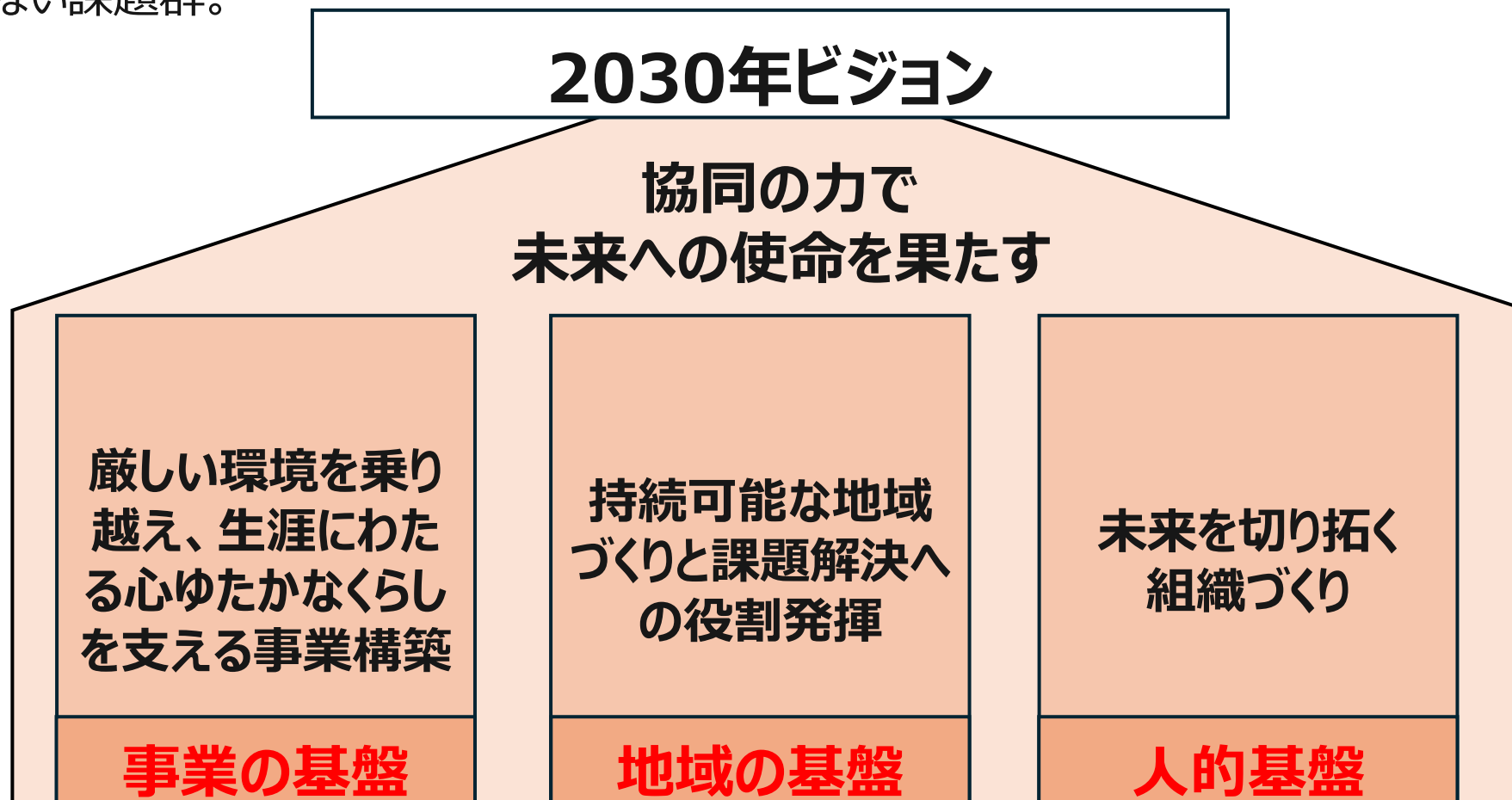
- 競争の激化、物価高騰、人手不足等、ビジョン実現に向けて険しい壁が立ちはだかっている。これらの壁を全国の生協で力を合わせて乗り越えると同時に、2030年以降の生協と社会のあり方を見据えて、果敢な挑戦が求められている。
- 第2期までの成果を着実に引き継ぎつつ、それぞれの地域でのお役立ちをさらに広げるために生協の総合力を高め、ビジョンに掲げた「世帯加入率過半数」の実現を追求。
- 第3期は、残された課題解決を早急に進めつつ、大きく変化する組合員の暮らしを見つめなおし、未来を見据え、確かな基盤を築き飛躍に向けて加速する期間と位置付ける。



つながる力で  
未来をつくる  
— CO-OP 2030 —



- ・ 飛躍に向けた3つの基盤「事業」「地域」「人・組織」に、「未来への使命」を加えた4点に。
- ・ 「未来への使命」・・・2030年以降の未来を見通して、世界的な視野も持ちつつ、息長く取り組まなくてはならない課題群。



① **厳しい環境を乗り越え、生協のシェアを再び上げるための購買事業構築**

- ・縮小均衡に陥ることなく、加入拡大・利用定着と、既存組合員の利用の引き上げの両課題を進める。
- ・一人ひとりへのお役立ちを目指しながら、特に「シニア」「子育て」「若年」層へのアプローチとMDを強化。

	多様な総合力の発揮	品揃え・商品力
利用を 広げる	生協とのあらゆる接点が 加入や参加の入口となる 総合力の発揮	加入動機・利用定着につながる 魅力的な品揃えと商品力の強化
利用を 深掘りする	多様な事業の併用を促し データに基づき一人ひとりの 利用点数と頻度を引き上げる	品揃えと商品力強化・ プロモーションの両面から さらにお役立ちを高めていく

＜利用を広げる＞

● **生協とのあらゆる接点が 加入や参加の入口となる 総合力の発揮**

- ✓ 店舗・宅配など組合員視点での事業連携の強化
- ✓ 広報・イベント・地域の諸団体など多様な接点とつながる参加・加入
- ✓ 組合員からの紹介や資料請求者への確実な加入促進
- ✓ **共済シナジーで妊娠時点での加入促進**
- ✓ 高齢になって加入した方へのサポートの充実



● **加入動機・利用定着につながる 魅力的な品揃えと商品力の強化**

- ✓ お試しから加入、加入から定着につながる魅力的な品揃え
- ✓ 利用定着を促進するプロモーションの展開
- ✓ 若年層、単身世帯にもお役立ちするMD強化
- ✓ 若い世代の加入拡大につながる商品軸の広報展開



【100か月CO-OP】

100か月のCO-OP 100か月のコープのお役立ち (記載している商品・サービスは一例です。) CO-OP CO-OP共済



※商品・サービスは全国の生協・コープにより異なります。

100か月CO-OPはこども家庭庁が推進する、「はじめの100か月の育ちビジョン」とも連動

[https://www.cfa.go.jp/policies/kodomo\\_sodachi](https://www.cfa.go.jp/policies/kodomo_sodachi)

日本生協連とコープ共済連が合同で、子育て層への認知・利用拡大の取り組みを開始。商品と共済の両面から『生協の価値』を発信。妊娠からの100か月間、コープは途切れなく様々な価値を提供しています



## <利用を深堀りする>

### ● 多様な事業の併用を促しデータに基づき 一人ひとりの利用 (点数と頻度) を引き上げる

- ✓ 併用率のさらなる向上、生協で展開する多様な事業間の相乗効果を高める
- ✓ 一人ひとりの組合員との接点の情報を丁寧に読み解くデータドリブン経営への挑戦
- ✓ めくもりのあるコミュニケーションを通じて生協の多様な事業・活動をお知らせし、地域において体験価値の総和を増やしていく

### ● 品揃えと商品力強化・プロモーションの両面から さらにお役立ちを高めていく

- ✓ 組合員の暮らしに寄り添った、商品・サービスの開発および品揃えの充実
- ✓ 価格訴求の全国プロモーション、人気商品を中心とした価値訴求の展開
- ✓ 「声に応える」事業への参加を通じて、生協の理念とビジョンの理解を広げる



©尾田栄一郎/集英社・フジテレビ・東映アニメーション

## データドリブンな事業運営の推進による利用拡大

下記の方針に基づき、データ活用を拡大していく

### ■ 基本方針

データは「集めること」ではなく、**価値を生み出す**ために活用 

- ✓ 組合員一人ひとりに合ったサービス提供を通じ、加入拡大・利用定着を実現
- ✓ 現場の業務や経営判断にデータを活かし、事業運営そのものを進化させる

### ■ 活用案

#### (1) メンバーシップ領域

- ・若年層を中心とした加入拡大の強化（特に宅配）
- ・利用データをもとにした定着・離反防止の高度化
- ・一人ひとりの利用状況に応じた個別アプローチ（One to One）

#### (2) コープ商品事業

- ・開発～生産～利用までのデータの見える化
- ・需要把握の精度向上による商品開発・改善の高度化
- ・サプライチェーン全体で開発～利用までのスピード及び品質の向上

### ■ 開始している取り組み

- 宅配の利用拡大・定着に向けた会員生協とのデータ活用検討会（デジタル推進委員会）
- 業務でのデータ活用基盤の整備（情報プラットフォーム構想）

# 生産と消費をつなぐ力の強化と持続可能な食と農に向けた取り組み

## ● 食料の安定供給に向けたサプライチェーンマネジメントの向上

- ✓ 中東情勢による包材変更への速やかな対応、消費者とのコミュニケーション
- ✓ 宅配の波動改善（平準化）に向けた継続的な改善の取り組み
- ✓ 商慣習の見直しによる食品ロス削減や食育の推進、子ども食堂・フードバンク等への支援

## ● 人口減少・気候変動・構造的な調達リスクへの対処

- ✓ 生協産直の共同点検推進など、産地の生産性向上への貢献
- ✓ 環境に配慮した生産物や、自給力向上につながる国産飼料を与えた畜産品の推進
- ✓ 異常気象による不作情報の提供や抽選対応など、組合員とのコミュニケーションの強化

## ● 生産者と消費者をつなぐ生協の「つなぐ力」の強化

- ✓ 生産現場の状況を知る学びの場づくり、援農やファームステイなど農的関係人口づくり
- ✓ 規格外野菜セットや産地指定の登録米など食べ手と作り手をつなぐ商品の推進
- ✓ 生産者・産直担当職員が集い課題解決を目指す合同次世代幹部研修の開催



**地域の基盤  
「協同組合による若者・こどものための  
大きな応援団」**

➤ **国連で2度目の国際協同組合年と定められ、世界の協同組合で記念イベント、シンポジウム、フェスティバルなど開催**

• **日本国内では、日本協同組合連携機構（JCA）で実行委員会を立ち上げ**、2025年2月19日に国連大学 ウ・タント国際会議場でキックオフ集会を開催。21の県域でIYC2025実行委員会が設立され、多様な活動実施。それ以外の県域でも既存の連携組織の枠組みで取り組み実施。



国連大学ウ・タント国際会議場で開催されたキックオフイベントにて挨拶する山野徹 日本協同組合連携機構（JCA）会長（当時）、森山裕協同組合振興研究議連会長

➤ **2025年5月国会で「国際協同組合年に当たり協同組合の振興を図る決議」が採択。**

決議では「協同組合が相互扶助の精神に基づき地域社会の持続可能な発展のために活動している点を重視し、**持続可能な地域社会づくりに当たっては、その有力な主体として協同組合を位置づけること**」とされた。

2025年12月15日、国連総会本会議は、決議「社会開発における協同組合」で、10年ごとにIYCを宣言することを採択 → **次回は2035年！**



第217回通常国会で「協同組合の振興を図る決議」が採択されました（写真：日本農業新聞提供）

- IYC2025全国実行委員会では、「**協同組合に対する理解を促進し、認知度を高める**」こと等を目標に、参加の、生協、農協、漁協、森林組合、労働者協同組合、労金、信金、信組、中小企業協同組合などが協力し、記念イベント、シンポジウムなどを開催。
- 全国各地の協同組合の取り組みも含めて、社会課題・地域課題への取り組みを通じ、持続可能で包摂的な社会づくりに貢献していることについて認知と理解を広げることを目指したものの、**社会全体に浸透したとは言えない状況**。
- 今回の取り組み総括を踏まえて、今後は**事業・活動を通じ、社会課題・地域課題への取り組みを積み重ね、社会全体に継続的に発信していくことを確認**。



具体策として、各協同組合が力を合わせて、  
“困難がある若者・子どもを支援し、ともに歩む”プロジェクト  
**「協同組合による若者・子どものための大きな応援団」**  
に取り組む



協同組合フェスティバルを  
東京国際フォーラムにて開催



ムービーコンテストIYC2025賞を  
やまゆり生活協同組合が受賞

- 「協同組合による若者・こどものための大きな応援団」の実行委員会を設置し、日本協同組合連携機構（JCA）が事務局を担う。
- 実行委員会では、若者・こどもを取り巻く状況や支援についての「調査・学びの推進」、「支援団体と全国の協同組合との仲介および情報交換」、「全国の協同組合による困難がある若者・こどもを支援する取り組みに関する調査・研究および広報」を行う。



### なぜ今、若者・こども支援なのか

#### 日本の若者・こどもの現状

不登校 約34万人  
 若年層死因1位：自殺  
 児童虐待相談 20万件超  
 貧困による教育・進学格差

#### 若者支援の現状と課題

そもそも「若者福祉」の制度がない  
 段階的な支援プロセス  
 相談できる場所がない  
 たくさんの関係者の協力・協働が必要

#### 協同組合の使命

**持続可能な地域づくりと課題解決への役割発揮**

**➔ 若者・こどもの支援は「地域の基盤」**

協同組合の価値を社会に発信し、次の10年へ 「わたしのできること」でみんなと繋がる

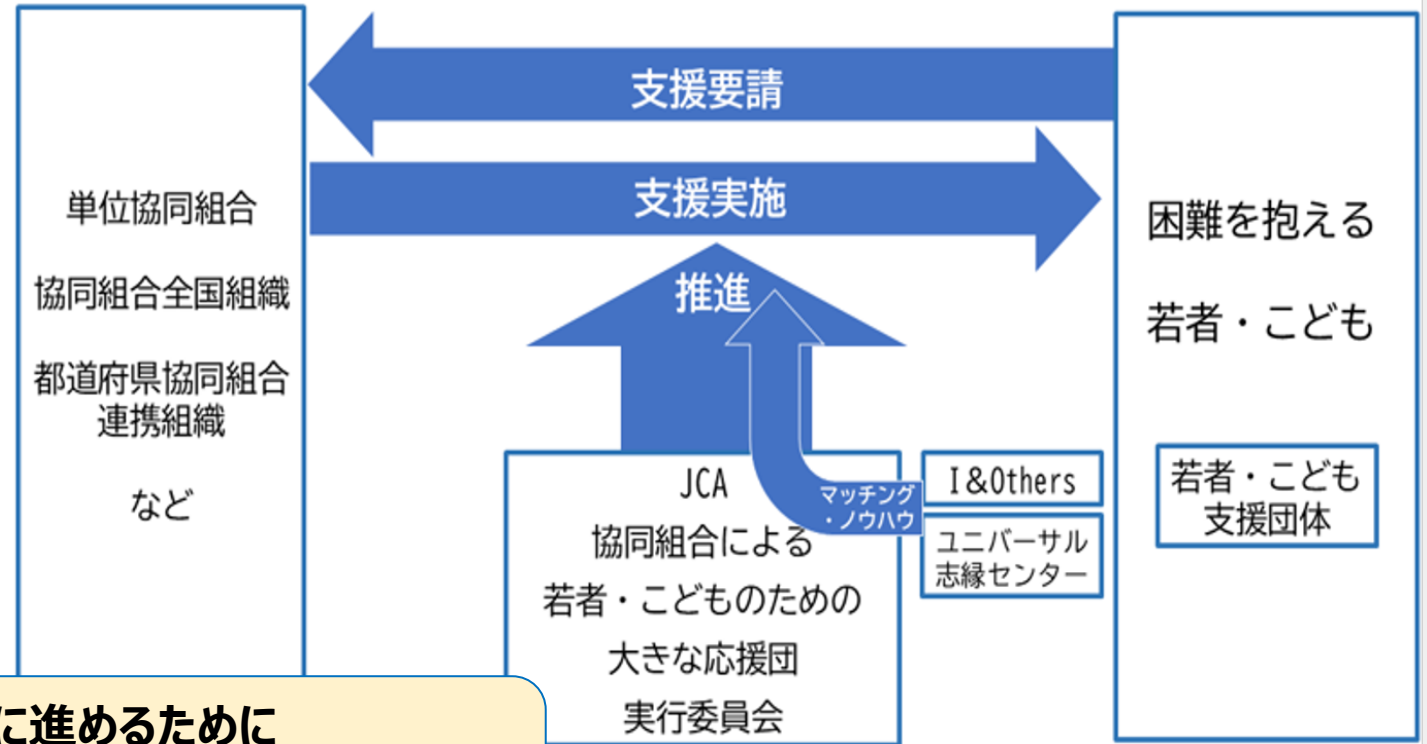
協同組合が持つ力

- ・「助け合う」というコンセプトを持っている
- ・「食」「福祉」「医療」…に強い
- ・「場所（施設）」持っている
- ・物流のしくみを持っている
- ・情報発信の手段を持っている
- ・「物資」を持っている
- ・「働く場」を持っている
- ・力を持った「組合員」がいる
- ・学習する文化がある

考えられる支援活動（例）

- ・食料品等の物資提供
- ・遊び・見学など「体験」の提供
- ・就労機会の提供（インターンシップ含む）
- ・募金の実施
- ・寄付付き自動販売機の設置

「協同組合による若者・こどものための大きな応援団」全体図



さらに進めるために  
 「協同組合」×「協同組合」  
 「協同組合」×「他社会セクター」

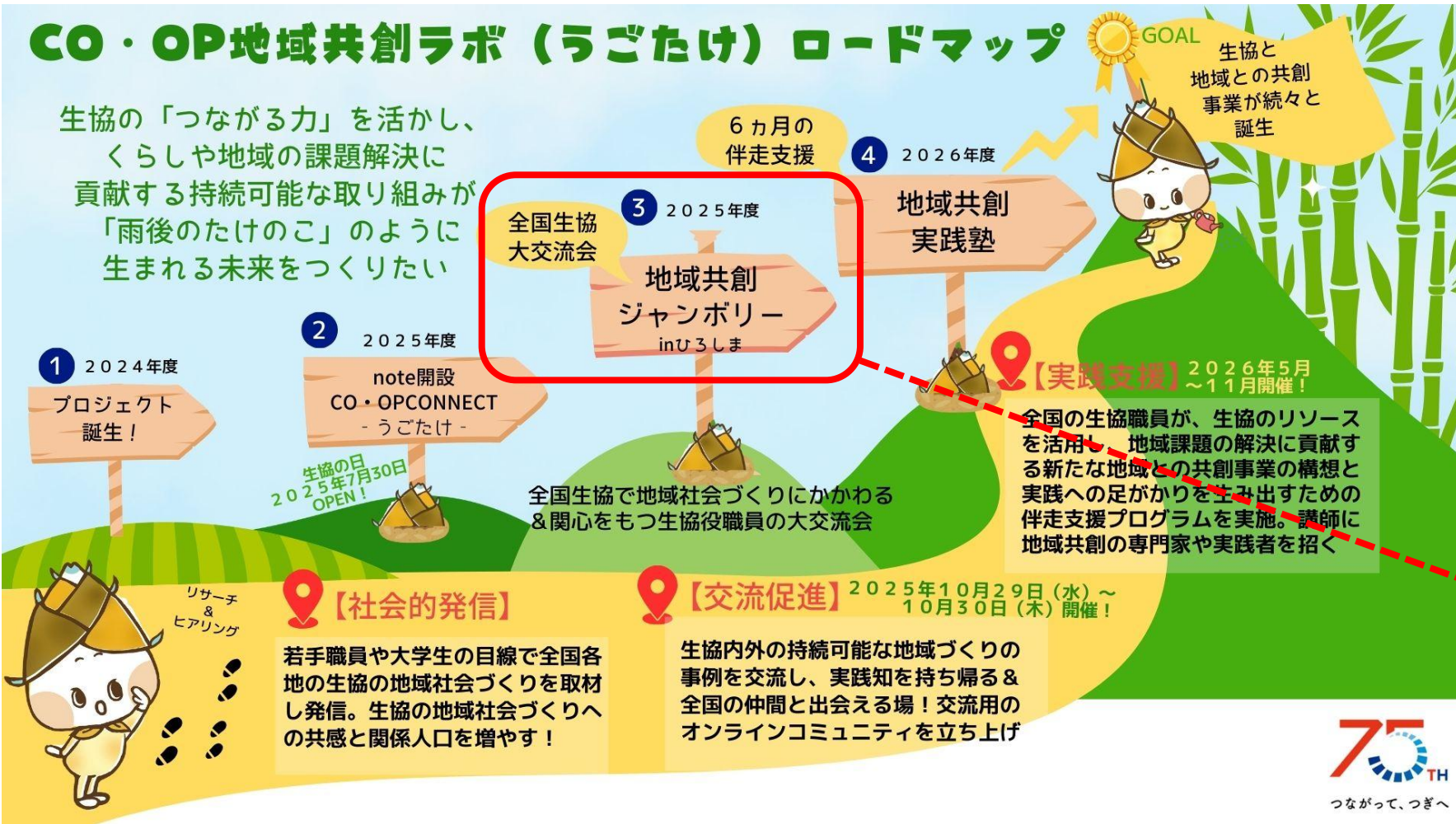
.....

**創立75周年のレガシー**  
**「つながって、つぎへ」**  
**～次の時代に受け継がれていくもの～**

2030年ビジョンの1つ「安心して暮らし続けられる地域社会」実現に向けて

CO・OP地域共創ラボ（うごたけ）ロードマップ

生協の「つながる力」を活かし、  
くらしや地域の課題解決に  
貢献する持続可能な取り組みが  
「雨後のたけのこ」のように  
生まれる未来をつくりたい



地域の行政や諸団体との「つながる力」を大切に、くらしや地域の課題解決に向けた取り組みを広げる

- ① 交流促進
- ② 実践支援
- ③ 社会的発信



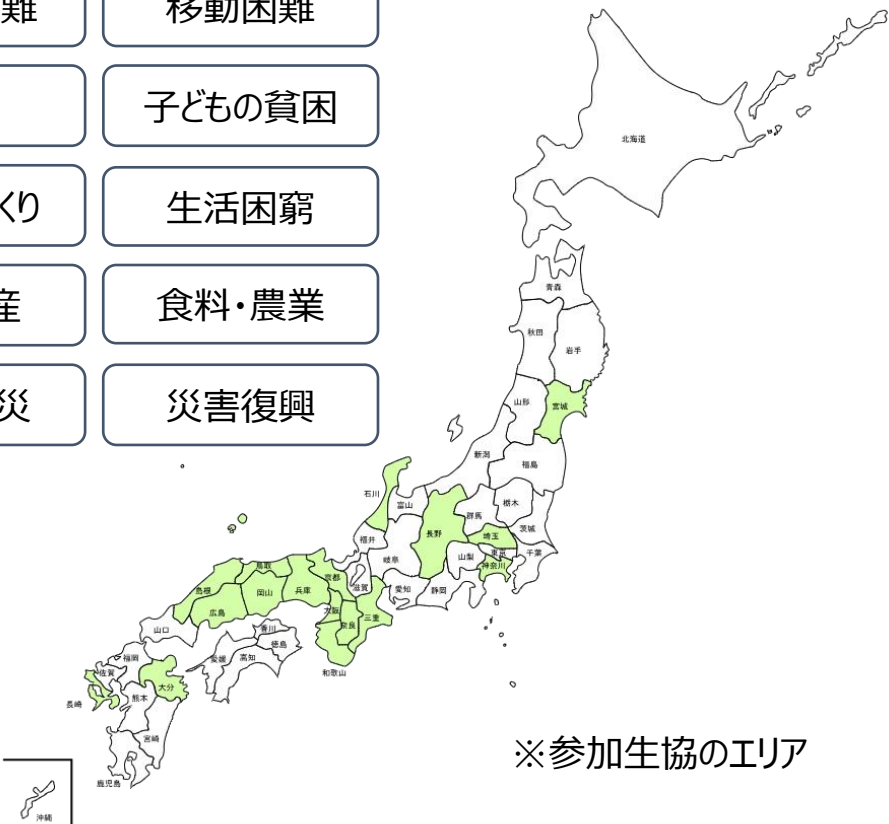
2025年11月「地域共創ジャンボリー」には全国55生協・26団体・約300名が参加し、地域での実践を交流

## 地域共創・実践塾（2026年5月～11月）～交流から、実践支援へ～

全国17生協・30名が参加。生協の資源を活用し、地域共生社会や地域課題の解決に貢献する新たな共創事業を生み出すための6か月間に及ぶ伴走支援プログラム。各生協の未来開発へ

※扱う地域課題の例

- |        |        |
|--------|--------|
| 買い物困難  | 移動困難   |
| 子育て    | 子どもの貧困 |
| 居場所づくり | 生活困窮   |
| 遊休資産   | 食料・農業  |
| 防災・減災  | 災害復興   |



※参加生協のエリア



※2026年5月キックオフの様子。若手起業家や社会課題に挑むリーダーの育成・支援を行うNPO法人ETIC.に協力委託

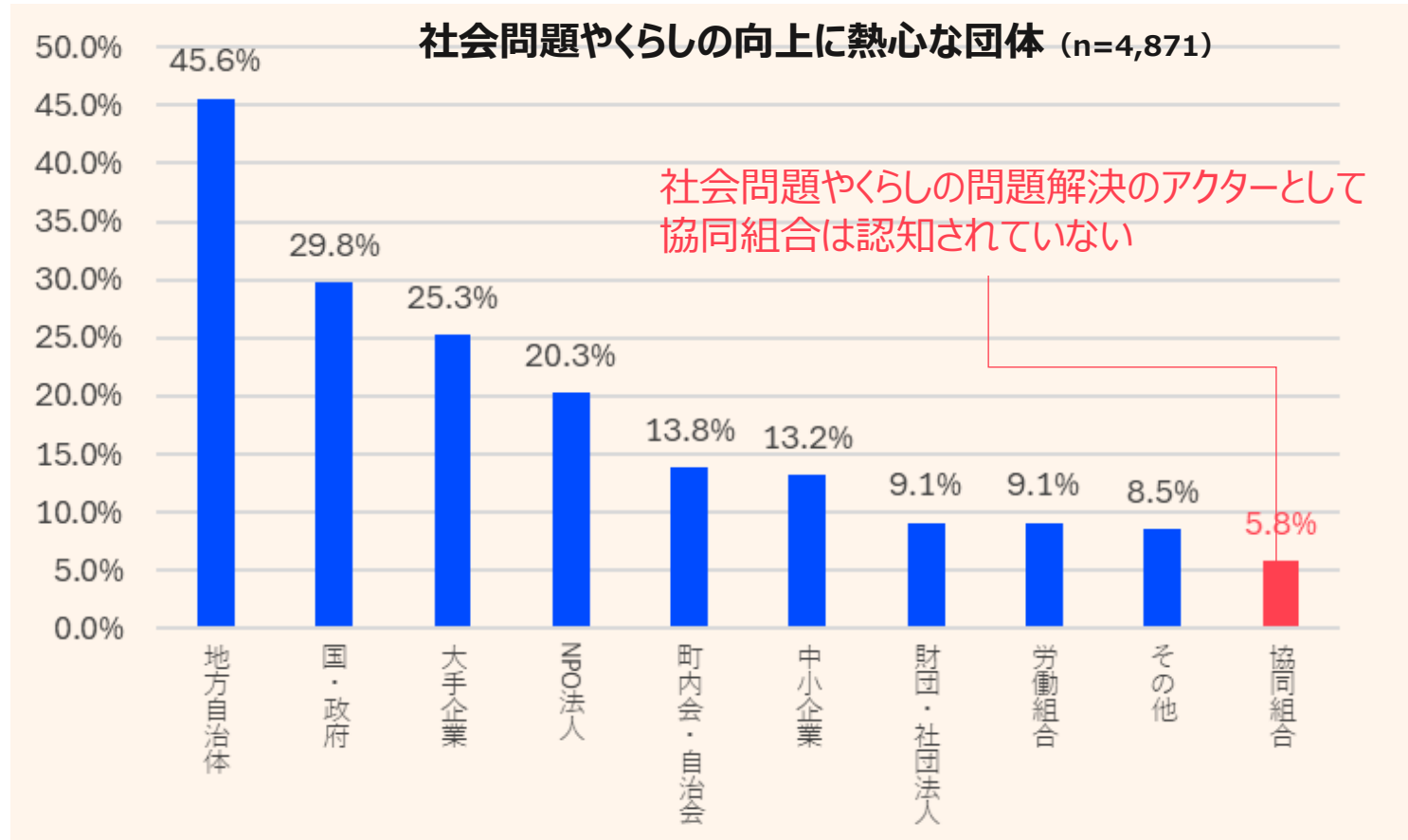
生協の21世紀理念「自立した市民の協同の力で 人間らしい暮らしの創造と 持続可能な社会の実現を」に向けて社会課題に挑む若者団体（NO YOUTH NO JAPAN, KNOW NUKES TOKYO）と協働し協同組合の価値や実践の発信と、若者との対話を通じた市民社会づくりに取り組む



■公式サイト  
<https://wecoop.jccu.coop/>



■Instagram  
[https://www.instagram.com/wecoop\\_75](https://www.instagram.com/wecoop_75)



(出所) 全労済協会「勤労者の生活意識と協同組合に関する調査報告書〈2024年版〉」

- ① **情報発信**：社会をよくするヒントとしての実践を若者視点で取材・発信（再生回数累計100万回超）
- ② **中間支援**：日本生協連オフィススペースをハブとして、若者団体の相互支援・ネットワーキング
- ③ **ワークショップ開発**：各地の生協と若者をつなぐきっかけとなるワークショップを開発

① **情報発信**：Instagram投稿動画の例



② **中間支援**：オフィススペース利用の様子



③ **ワークショップ開発**：

社会課題の解決や市民社会づくりを切り口として、各地の生協と若者との対話を促すツールを開発。  
**75周年以降も、持続的な対話と協働へ。**



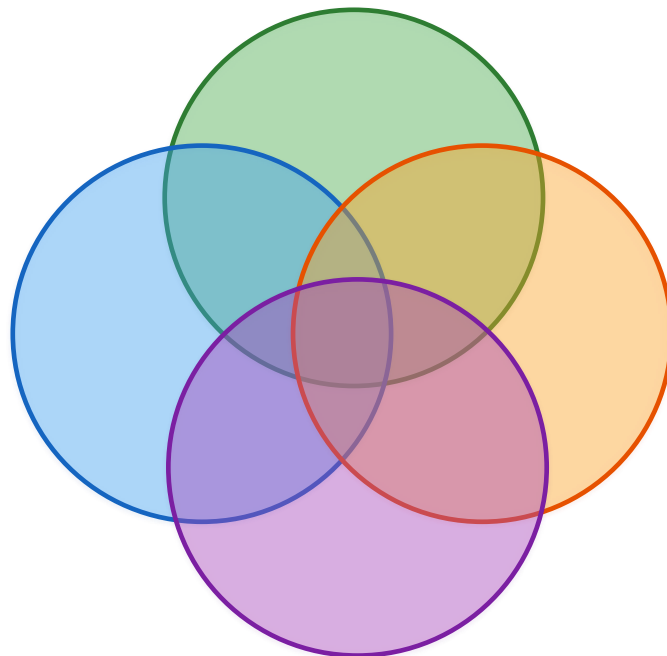
協同の力で  
未来への使命を果たす

## 2030年以降の未来へとつづく革新や挑戦

助け合いの組織、組合員組織、非営利共同組織として役割と価値を再確認し、飛躍へと加速

すべての人々が人間らしく生きられる  
豊かな地球を未来のこどもたちへ

戦争も核兵器もない  
世界の実現



持続可能な  
食と農の実現

協同組合の思想と実践を  
次世代につなぐ